



◎四ツ谷東

降旗 祐希

私は今年新成人になります。まだ大学生で親のすねをかじっています。父母には幼い頃から迷惑をかけ続けて大変苦労をさせてしまったので申し訳なく思っています。しかし今年は大

山の人達に支えられてきました。成人を迎えた今、次は私を支えてくれた人達や、これから出会

◎四ツ谷町

三澤 香菜子

私は高校卒業後、県外の学校へ進学し、一人暮らしをしています。一人暮らしをして苦労したことは新しい場所に慣れることと、家事です。



今年、第三地区では四十四名が成人となりました。その中から六名の方たちに、成人をむかえてのメッセージをいただきました。

成人おめでとうございます



高木さん 大谷さん 三澤さん 降旗さん 中澤さん (舟久保さんは欠席)

◎県町北

舟久保 駿

今まで家のことは母がやってくれました。しかし、一人暮らしとなると全て自分がやらなくてはいけなく、大変でした。改めて母に感謝しました。

新しい場所に慣れることができたのは、友人や家族、親戚の人達が支えてくれたことと、新しく出会った人達が気にかけて

う人達を支えられるようになりたいと思っています。

◎県町南

大谷 理紗

この度、無事成人式を迎えられたこと嬉しく思っております。現在、私は長野市の短期大学に通っており、四月から地元で社会人になります。短大では、二年という短い期間でありながら多くのことを学ぶことができ、大きく成長することができました。社会人になるにあたり、緊

張していた部分もあるのですが、成人になった実感とともに、社会人として春に向けての決意を新たにすることができました。

東京で一人暮らしをして改めて思うことは、自然豊かな松本の素晴らしさ、地域の皆さんの温かさや家族の大切さです。皆さんの期待に応えるためにも勉強、アルバイトや友人関係など、日々の生活を疎かにせず大切に、いつか故郷松本に貢献できるようになりたいと思っています。

◎東源池

中澤 誠人

自分は去年一年間の浪人生活を経て、地元の大学に進学しました。そこでは自分が今まで興味を持ったこともなかったことから、自分が学びたいと思っていたことを勉強しています。これから自分はどういうことをしていきたいのか、また、何ができるのかを、この学生生活で探していきたいと考えています。

この度、成人式を迎え社会に出ていく一歩を踏み出しました。まだ学生の立場ですが、この機会を人生の節目として向き合いたいと思います。

◎幸町

高木 祐佳子

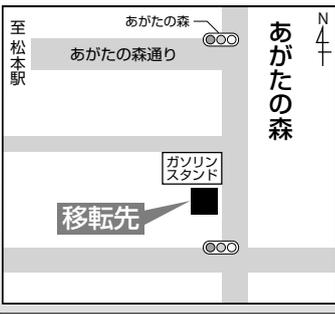
私は地元を離れ関東の大学に通っています。不慣れな一人暮らしを始めてから成人するまでの約二年間は本当に早いものと感じました。

大学の四年間とは自分の今後を決めるための猶予期間だと思っています。そして成人を迎えたということはその折り返しであることを意味します。

消防団第三分団詰所移転



取り壊される、現在の詰所



片倉工業の土地を借りて、少なくとも昭和十三年頃から詰所がありました。カタクラモールの再開発にともない移転します。新しい詰所は平成二十七年二月中旬に完成予定。



清水中学校野球部 初の全国大会出場!!



清水中学校野球部は、昨年十一月に文部科学大臣杯第六回全日本春季軟式野球大会で中信頼勢として初の全国大会出場を決めました。試合は三月二十日から静岡県岡原の草薙球場で行われます。今年は松商学園硬式野球部も春の選抜出場が濃厚なので、第二地区は野球が熱い地区となりそうです。地域の皆さんも応援よろしくお願ひします。

(降旗 都子)

全国大会に向けて

主将 小林 綾
清水中学校野球部は、二年生九名、一年生三名で活動しています。十二人という少人数ですが、県制覇を目標に一戦必勝全力で戦ってきました。そして、十一月一日北信越大会で新潟県代表を破り全国大会出場を決めました。

全国で戦えるチームになるために、一人一人が自分の課題を意識し、日々練習に励んでいます。

三月に静岡で行われる全国大会では、長野県そして北信越の代表であることの自覚を胸に、挑戦者としてベストを尽くして戦います。

全国大会に向けて

顧問 宮崎 達也
伝統ある清水中野球部がついに偉業を達成しました。

部活動としての野球部ですが、全日本軟式野球連盟に登録し、中体連大会同等の少年部(中学生年代)各種大会に参加しています。この大会は高校野球の春の選抜甲子園に匹敵し三十二チーム出場です。

十二名という少人数ですが、「野球部四本の柱」をモットーに、活動の始めと終わりに「校歌」を歌い感謝の気持ちをもって野球をしています。

大会では、バッテリーを中心に堅い守備で失点を抑え、チャンスを確実に得点につなげる「清水全員野球」で勝負してきます。皆様の応援をよろしくお願ひします。



お別れ会では、代表児童十五人が児童館への感謝の言葉を発表しました。素直な児童館への思いが溢れていました。そして最後に児童全体で手話を交えて「ピリッ」の歌を合唱しました。この感動と思いを大切にしていって平成二十七年一月から開設される児童センターでの活動が皆様方に愛される場となることを願っています。

昭和四十一年の開設から約五十年の歩みを築いてきた児童館が、地域の皆様方の様々なご支援をいただき、今日を迎えることができ、感無量の思いがいたします。使い古された廊下や壁のところに、育み巣立っていった子ども達の足跡を感じています。

お別れ会では、代表児童十五人が児童館への感謝の言葉を発表しました。素直な児童館への思いが溢れていました。そして最後に児童全体で手話を交えて「ピリッ」の歌を合唱しました。この感動と思いを大切にしていって平成二十七年一月から開設される児童センターでの活動が皆様方に愛される場となることを願っています。

12/10

あがた児童館お別れ会

改革により児童センターとして
新たに生まれ変わるあがた児童館
でお別れ会を開催しました

あがた児童館 館長 山岸 紀子

湧き水

年の瀬を迎え本棚を片付けていたら、四十年前程前に通っていた料理教室のレシピのファイルが出てきた。わら半紙にガリ版で刷った昭和の匂いがする年代物。

初心に戻って定番のおせち料理のうち、だし巻玉子レシピ通りに作ってみた。かなりゆるい卵液で焼き加減が難しく、まき簾で形をごまかして仕上げた。やわらかく、やさしい味のだし巻玉子だった。

だし巻玉子と厚焼き玉子との境界線はわからないが長年の間に家族構成、健康状態や嗜好の変化により味付けが濃くなって、我が家のだし巻玉子は厚焼き玉子になっていた。

もしかしたら他の料理も味が濃くなっているのかと思いつたに訊ねた。しばらく黙っていたが、一言返ってきた。お前が強くなったのは確かだ。と。噛み合わない会話だけれど、穏やかに年は明けた。

(小口 希志子)

